

いなほ福祉会ニュース

がんばってま〜す 86

地域とともに

『働く力を、地域のために』

いなほ作業所

9月6日(土)「いなほ作業所」は地域交流イベント『汽ノ舎の縁日』に共催者として参加しました。パンづくりを通して育ててきた「働く力」を地域のために活かしたい。その思いから、事前準備から運営・出店まで関わり、地域のにぎわいづくりに力を尽くしました。

縁日では、子どもや住民、障がいのある人達が一緒に楽しむ姿が広がり、福祉をより身近に感じてもらえる温かな時間に。障がいの有無を越えて共に地域をつくる、新しいつながりの第一歩となりました。これからも、培った力を地域に活かし、交流と貢献を重ねていきます。



『古座小学校2年生との交流』

通園らっこ

「通園らっこ」では、学校周辺の施設やお店を知る学習を進めている古座小学校2年生からの「通園らっこを知りたい」という声を受け、見学・交流を行いました。「何年前からやっていますか」「何時から何時までやりますか」等、積極的なインタビュー。

交流会では「らっこ」の子どもたちと一緒に遊び、『子犬のピンゴ』という楽しい歌も教えていただきました。交流後、児童の皆さんが冊子を届けて下さり、「楽しいことも、6人だから6倍ですね」と、とても素敵な感想をいただきました。『子犬のピンゴ』は、「らっこ」の子どもたちの大好きな歌になり、毎日楽しんでいます。



『汽ノ舎』とは、太田川の河口に位置する旧JAみくまのビルをリノベーションした地域の新しい交流拠点施設です

『地域とともに歩む』 平見ハイツ



グループホーム「平見ハイツ」では、9月25日に『地域連携推進会議』を開きました。

この会議は、施設と地域とのつながりを深め、利用者が地域の中で安心して暮らせるように話し合う場として、令和7年度から開催が義務づけられています。

当日は、地域の代表やご家族、福祉関係者など6名が参加。事業所内の見学や映像を通して日頃の生活の様子を見ていただきました。地域の方からは「初めて施設を見学できて勉強になった。地域に知ってもらう良い機会」との声もあり、和やかな会となりました。

『あなたにとって福祉の仕事とは?』



私にとって福祉の仕事とは、子どもたちが「挑戦すること」をお手伝いすることだと思います。一人ひとり個性があり、得意なこと、興味を持つことは異なります。苦手なこと、嫌いなこともそれぞれです。「苦手なことをどうできるようにするか」という発想ではなく、「どうすれば子どもたち自身がやりたいと思えるようなサポートができるか」という発想を大切にしています。毎日の生活の中で、ちょっと手伝ってもらえたらできた、誰かと一緒にいたらできた、そんな瞬間の積み重ねが大きな自信となって、子どもたちの未来を作っていきます。時に失敗しながらもチャレンジして成長していく姿を間近で見られることが、この仕事の一番の魅力だと思っています。

「挑戦すること」のお手伝い。

通園めだか主任 中道 麻弓



ごあいさつ

「支えられる側」から「支える側へ」!

日頃より、当いなほ福祉会の事業に対しましては、温かいご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、長年にわたり新宮市佐野地区で運営してまいりました『ワークショップゆう』が、昨年5月に那智勝浦町宇久井に新施設を建設し移転いたしました。

那智勝浦自動車教習所から少し山手に入ったところにあり、とても緑豊かな場所です。地域の皆様にもご理解をいただき、新たな気持ちでスター

トし、利用者の皆さんも毎日、張切って作業や生活に取り組んでいます。

『福祉』は、支えられることが多いですが、いなほ福祉会では『支えられる側から、支える側へ』を合言葉に障がいのある人たちとともに、積極的に「地域交流」「地域貢献」に取り組んでいます。

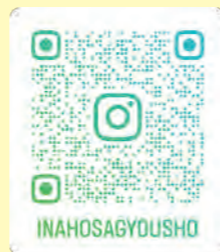
老若男女問わず、障がいがある無しに関係なく、だれもが住みよい街づくりは、日常の様々な交流をとおして築かれていくものと言えます。

社会福祉法人いなほ福祉会 理事長 細野建治



編集後記 今年度から、いなほ福祉会の広報を担当させていただくことになりました。各事業所の、「あれも伝えたい」「これも伝えたい!」と思いは膨らむばかりですが、ニュースを作るのって実はすごく大変! 今まで担当していただいていた皆さんに頭が下がる思いです。自分で経験するって、大切ですね。いなほ福祉会の魅力を沢山お伝えできるよう、頑張りたいと思います。(西野)

『ワークショップゆう』と『いなほ作業所』の公式Instagramです! ぜひフォローをお願いします(^_^)



『ワークショップゆう』が新しくなりました!

新たな場所で地域と築く、新しい一歩

「ワークショップゆう」は、昨年5月に新宮市佐野から那智勝浦町宇久井地区へ移転しました。

これまでの事業所は手狭で、利用を希望される方を十分に受け入れることができませんでした。そこで、みんながのびのびと働ける環境を整え、自然災害の影響を受けにくく、安心して過ごせる場所を目指して、事業所を新築しました。

宇久井の中でも高津気地区に隣接するこの地域は、春にはモクレンや桜が咲き、初夏に

はホタルが舞い、夏は川遊び、秋にはドングリが実るなど、四季を通じて自然の豊かさを感じられる場所です。地域の方のジョギングコースをみんなで散歩するのも、心地よいひとときとなっています。

6月には、お披露目の機会として『地域交流イベント・よってこ』を開催しました。当日は施設内に入りきれないほどの多くの方にお越しいただき、パンの試食や施設見学を通して交流の時間を持つことができました。建設中から「何ができるのだろう」と興味を持ってくださっていた地域の方々にも、直接見ていただき、「ワークショップゆう」の雰囲気を知って

ただ良い機会になりました。

また、玄関の一角で「うぐいのちっちゃんパン屋さん」をオープンし、お昼前に「焼きたてパン」の「のぼり」を掲げると、地域の方が買いに来てくださるようになりました。地区の草刈りへの参加や、秋祭りでの獅子舞の来訪などを通じて、少しずつ顔なじみの方も増え、「のぼりを見て来たよ」と声をかけていただくこともあります。

「ワークショップゆう」は、障がいのある方が通い働く作業所です。働くことを通して、一人ひとりが持っている力を発揮し、人や社会とのつながりの中で、楽しみや経験の幅を広

げていけることを大切にしています。ここでの時間が、地域の中での豊かな暮らし、そして豊かな人生へとつながっていくことを願っています。

地域にとけこみ、「ちょっと寄っていこう」と思ってもらえる身近な場所となり、通所しているみんなが地域の一員として認められるように。そして、「この地域にワークショップゆうが来て良かった」と感じてもらえるように、これからも歩んでいきたいと思えます。

宇久井での開所から9カ月が経ち、初めての冬を迎えています。寒い季節にも、この場所ならではの楽しみを見つけていけそうです。



歩道の清掃活動



染め物体験教室



法人事務センター

『いなほ福祉会の要』

新設された「ワークショップゆう」の2階に『法人事務センター』があります。「請求」「給与」「会計」「労務」等々、法人事業を円滑にすすめる重要な仕事を担っており、現場で働く職員の快適な職場環境を整えることにもつながっています。聞きなれない言葉ですが、こうした裏方業務は『バックオフィス業務』と呼ばれ、法人が運営する7つの事業を支えている重要な部署になっています。



地域交流イベント～藪下将人さんライブ～